

海運の重要性を学校教育の場で
～川崎市・横浜市にて海事施設の見学会を開催～

当協会は、日本の暮らしと産業を支える海運をはじめとする海事産業の重要性を学校教育において取り上げていただくよう、海事施設の見学会や出前授業の実施等に取り組んでおります。

今般、東洋埠頭等の協力を得て、1月23日（金）に三鷹市立高山小学校5年生約180名を対象に、川崎港コンテナターミナル（以下、CT）及び横浜みなと博物館での見学会を開催しましたので、その様子をお知らせします。

【見学会概要】

当日は、5クラスの児童が川崎港CTと横浜みなと博物館に分かれて、交互に見学しました。

川崎港CTでは、コンテナ内部の見学とバスでターミナル構内を一周する見学を実施しました。

コンテナ内部の見学では、20FT・40FTドライコンテナと、 -10°C に冷やされた40FTリーファーコンテナの中に実際に入り、それらの構造の違いについて学びました。ドライコンテナの底は平らなのに対し、リーファーコンテナの底は、冷気を循環させるために凹凸構造になっていることを、実際に見て確認しました。各コンテナの中に入って扉を閉めると真っ暗になり、その密閉性を体感した児童からは「すごーい！」と歓声が上がりました。



コンテナ内部見学の様子

ターミナル見学では、担当者の説明を聞きながらバスで CT 構内を一周し、リーファーコンテナやタンクコンテナ等、様々な種類のコンテナが積み上げられている様子や、トランスファークレーンでコンテナを移動させる様子を見学しました。また、「植木」がフラットトラックコンテナ（屋根と両側面がないコンテナ）に丁寧に積み込まれる様子も見学することができました。



ターミナル見学の様子



コンテナに積まれる植木

ターミナル見学の後は会議室に移動し、東洋埠頭の担当者から、川崎港 CT とコンテナについて講義がありました。川崎港 CT は、高速道路網の発達や、日本随一の冷凍・冷蔵倉庫の集積地という強みがあることから、身近な食品や家具等が荷揚げされていることを学びました。

講義後の質疑応答の時間には、児童から「コンテナを積むときに、船のどの位置に積むかは決まっているのか」という鋭い質問があり、「重さや、おろす港を考慮し、『積み付けプラン』というものを作成し、そのプランにしたがって安全かつ効率的な積み方をしています」という回答がありました。



講義にて、ドライコンテナとリーファーコンテナの違いを説明する様子

横浜みなと博物館では、ペリー来航から現在に至るまでの横浜港の歴史や、港の役割、寄港してきた数々の船を紹介する展示の見学等を通じ、経済、暮らしと密接にかかわっている海運・港湾についての理解を深めました。



横浜みなと博物館見学の様子

当協会は、出前授業等を通じて、海運をはじめとした海事産業を学校教育において取り上げていただけるよう、引き続き活動を展開してまいります。

以上